

日付	時間	活動内容 & 場所
4月20日 (月)	9:35 到着 12:00~13:00 14:00~17:00	空港からホテルへ 昼食&オリエンテーション 伊東いね子先生の講義・質疑応答
4月21日 (火)	9:30 集合 10:00 バスで移動	12:00 長瀬あゆみ先生と昼食 13:30 Dr Judy Radloff「保育園幼稚園のカリキュラムと発達」授業体験 14:00 大学内見学(図書館等) 15:00 Children's School 見学説明・質疑応答
4月22日 (水)	10:00 集合 10:20 Muni で移動 13:00 バスで移動	10:30 Safe and sound 説明見学・質疑応答 14:00 Asian Women's Shelter 説明・質疑応答
4月23日 (木)	8:30 集合 Uber で移動 13:00 直井先生の車で移動	9:45 シカモア幼稚園 見学・意見交換 14:00 Friends of Children with Special Needs 説明・見学・質疑応答
4月24日 (金)	8:45 集合 Bart で移動 12:00 Bart で移動	10:00 Through the looking glass 説明見学・質疑応答 14:00 本間玲子先生の講義・質疑応答 16:00 謝恩会

①伊東いね子先生によるレクチャー

伊東いね子先生によるレクチャーを通して、カリフォルニア州における発達障害者支援の仕組みについて学んだ。州とリージョナルセンターが連携し、地域生活を前提としたインクルーシブな支援体制が整えられている点が特徴である。特に、ランターマン法に基づく権利保障や自己決定の尊重、0歳からの早期介入の重要性が印象に残った。今後の保育実践に活かしていきたい。



②SONOMA 州立大学

SONOMA 州立大学では、乳幼児期の言語発達とリテラシー形成について学んだ。言語は胎児期から発達し、幼児期には遊びや対話を通して基礎が育まれることが強調された。多言語でのやり取りや砂を使った文字活動、なぐり書きなどの実践から、子どもの興味を生かした学びの重要性を理解した。さらに、経験をもとに物語をつくる手法や多文化・母語を尊重する関わりの大切さを学び、今後の保育に生かせる示唆を得た。



③ SONOMA 州立大学付属幼稚園

SONOMA 州立大学付属幼稚園では、大学資源を活用し教育・子育て支援・人材育成を一体的に行う運営が特徴的であった。1:8 の人員配置や学生インターンの関与により保育の質が担保され、バイリンガルを基盤とした体験型学習とドキュメンテーションによる学びの可視化が実践されていた。さらに、60 日ごとの発達評価や外部専門家との連携など、質と公平性を両立する仕組みが整えられており、日本の保育への示唆を得た。



④ Safe and Sound

Safe and Sound では、児童虐待防止において「介入」よりも「予防」と家族支援を重視する実践を学んだ。通報制度の課題を踏まえ、家族との信頼関係を基盤とした支援が特徴的であった。「5つの保護因子」に基づき、親のレジリエンスや社会的つながりを育む支援が行われている。さらに、トラウマインフォームド・ケアや多機関連携による包括的支援体制が整えられており、予防的かつ継続的な家族支援の重要性について理解を深めた。



⑤ Asian Women's Shelter

Asian Women's Shelter では、DV 被害を受けたアジア系移民女性への包括的支援について学んだ。言語や文化の壁により支援から取り残される人々に寄り添い、多言語対応や非公開シェルター、住居支援など多面的な支援が展開されている点が特徴であった。利用者は移民や経済



的困難など複合的課題を抱えており、チームでの連携と守秘義務を徹底しながら自立に向けた現実的な支援が行われていることに大きな示唆を得た。

⑥ シカモア幼稚園

シカモア幼稚園では、日系コミュニティに根差した多文化共生の実践を学んだ。教会や地域活動の場として機能するコミュニティの拠点であり、園児構成の変化に応じて日本語中心からバイリンガル教育へと柔軟に転換している点が印象的であった。食や多言語対応を通じた関係づくりや保護者同士の交流、ボランティア活用など地域と連携した支援が行われており、幼稚園が人と人をつなぐ基盤として重要な役割を担うことを実感した。



⑦ Friends of Children with Special Needs

Friends of Children with Special Needs では、特別な支援を必要とする子どもの早期発見と保護者との協働の重要性を学んだ。診断に頼らず日常の観察に基づく姿を共有し、専門機関につなぐ支援が求められている。また、保護者の不安や罪悪感に寄り添う共感的関わりが不可欠であり、長期的視点でパートナーとして支える姿勢が重視されていた。安心できる環境の中で子どもの強みを引き出す支援の重要性を理解した。



⑧ Through the Looking Glass

Through the Looking Glass では、0～3歳児への早期支援の重要性について学んだ。研究の蓄積に基づいた科学的根拠をもとに、実践的な支援体制が構築されている点が印象的であった。創設者の話からエビデンスに基づく支援の重要性と、多職種連携による包括的な関わりの必要性を理解した。日本においても専門職と研究機関が協働し、早期支援体制を整える必要性を強く感じた。



⑨ 本間玲子先生レクチャー

本間玲子先生の講義では、日米の子ども福祉制度の違いについて学んだ。日本は中央集権的で均一な支援が特徴である一方、アメリカは州ごとの差が大きく、貧富の格差が子どもの環境に



影響している点が印象的であった。ヘッドスタートのように教育・医療・家庭支援を包括的に行う制度や、通告後の親支援まで含めた仕組みから多くの示唆を得た。日本においても家庭全体を支える継続的支援の必要性を感じた。

合同研修を終えて

サンフランシスコでの合同研修を通して、子どもを中心に保護者や地域を含めた包括的支援と、多様性を尊重するインクルーシブな視点の重要性を実感した。また、多様な社会課題に直面する中で、人々が改善の仕組みを築き、科学的エビデンスに基づき実践を積み重ねてきた過程が印象的であった。多機関連携の重要性とともに、日本においても根拠に基づいた支援を発展させていく必要性を強く感じた。



←ゴールドゲートブリッジ

→坂の町 San Francisco

名物のケーブルカー



↑ San Francisco 市内の大聖：ステンドグラスには、アメリカの偉人が聖人のように描かれている。

→オラクルパーク 大リーグ観戦

